

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成26年度 第6回 川西市社会教育委員の会	
事 務 局 (担 当 課)		教育振興部 社会教育室 (内線 3421)	
開 催 日 時		平成27年2月25日(水) 10時00分~12時00分	
開 催 場 所		市庁舎 202会議室	
出 席 者	委 員	生田議長、安藤副議長、岡田委員、田中委員、廣末委員、米田委員、 真鍋委員、岸本委員、西谷委員 計9名	
	そ の 他		
	事 務 局	牛尾教育長、石田教育振興部長、中塚こども家庭部長、 森下総務調整室長、上中学校教育室長、柳川社会教育室長、田淵中央 図書館長、中定まなび支援室長、沼人権推進室長兼人権推進課長、井 上社会教育室主幹 計10名	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数 1名
傍聴不可・一部 不可の場合は、 その理由			
会 議 次 第		1. 開会 2. 前回会議録の承認 3. 報告事項 (1)阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会の報告について (2)各協議会の会議報告について (3)川西市生涯学習推進の方向について (4)その他 4. 議題 (1)「平成26年度社会教育委員の会 討議報告」について (2)その他 5. その他	
会議結果		別紙のとおり	

審 議 経 過

NO.1

議長	<p>今年度最後、第6回社会教育委員の会を開会いたします。なお、未澤委員が欠席です。開会にあたりまして教育委員会並びにこども家庭部からよろしくご挨拶の方をお願いします。</p>
教育長	(挨拶)
こども家庭部長	(挨拶)
議長	<p>それでは前回の会議録の承認について。</p> <p style="text-align: right;">(承認)</p>
議長	<p>それでは、次に3の項目の報告事項に入ります。事務局よろしくをお願いします。</p>
事務局	<p>(1)「阪神北地区社会教育委員協議会第2回研修会」について 日時：平成27年2月16日 会場：川西市アステ市民プラザ アステホール 講演：「生涯学習の利点と力」 川西市生涯学習短期大学レフネック学長、木津川 計 氏 講演：「学校から見た社会教育～学校・家庭・地域の連携協力が育てるもの～」 川西市立東谷中学校長、泉 廣治 氏</p>
議長	<p>それでは、(2)各協議会の会議の報告をお願いします。</p>
F委員	<p>2月13日に川西市青少年センター運営委員会があり、センターの26年度事業の総括と27年度事業方針について協議がありました。来年度、教育委員会事務局がこども未来部、教育推進部の2部体制になり、教育推進部は学校教育室とまなび支援室の2つになり、そのうち青少年センターはまなび支援室の地域こども支援課として地域の子どもの健全育成に努めて行くという事でした。体制が変わって行く中で、スマートフォンや非行の低年齢化がやはり問題とされ、そういう事も含めて、家庭、地域、学校、関係機関が連携を深めながら子どもだけでなく、保護者の支援を行っていくことが重要であるということでした。セオリアの方からは、学校への復帰というのは大きなハードルではあるが、完全な復帰は少数であっても、子ども達に対して連携を密にしながら学校復帰に、さらに社会的自立に向けて支援を進めていきたいという事を強くおっしゃられていた。何回か出席させて頂いて、今回、初めて川西警察署の署長さんの話を聞いた。いつも代理の方が見えていて、犯罪件数など数字的な事をおっしゃる方が多いのですが、今回は違って地域の子どものやはり宝であるので、地域で育てて手を携えて情報を皆が共有し、大人の活動としては青パトや青少年活動をお願いしたいが、子ども自身が学ぶ事としては、防犯アカデミーなどを行っているのでそういう所から学んでいって欲しいという話でした。また、防犯カメラを設置することなどで社会環境を整えていく事の大事さなどを話されていた。</p>
議長	<p>学校支援地域本部実行委員会では、この1年間の活動報告と過去5、6年間の活動も踏まえて、これからどう学校と連携していくのが良いかというところで、特に図書ボランティア</p>

審 議 経 過

NO. 2

	<p>ィア活動というのが一つの核になっているので、学校現場の代表の校長の方に来て頂いて、学校の実情も踏まえながら、どのようにコーディネーターの皆さん方に関わって良いのかという所で模索をしました。また、市民代表の方からも色々と意見を頂き、とにかくこの組織そのものが更に充実した形で学校現場と連携が取れる状態を何とか作って行こうということで終わりました。</p>
B委員	<p>1月にレフネックの運営委員会があり、来年度の2学部、それから他の募集などの検討委員会をしました。2月14日にはレフネックの修了式がありました。</p>
議長	<p>つづいて、(3)川西市の生涯学習推進の方向について事務局の説明をよろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>今年度、川西市生涯学習計画という事で討議頂いていた内容ですが、先般、それについての市長を含む経営会議を持ちました。その中の経緯としまして、生涯学習計画は、窓口は、教育振興部社会教育室が担当をしている訳ですが、基本的にその生涯学習の間口が現在非常に広がっている事、またその受け皿になっている部署が多岐にわたっていて、非常に重たいものであるという事も出され、まずは、教育委員会としてやれる事をやって行かなければならない事を整理すべきではないかというふうな指摘を受けまして、1年間計画という形で討議して頂いた訳ですが、基本的には内部計画という形で、推進の方向という位置付けで進めさせて頂きたいと考えております。ただ、1年間討議して、これから進むべき方向でもありますので、冊子にさせて頂き、社会教育施設の方には来年度設置し、今後、進めて行きたいと思っております。第5次総合計画の中に教育の計画も載っていますので、この推進の方向についても一応、年次は第5次総合計画と併せる形で平成34年度という形で進めていこうと考えています。評価については、毎年成果報告というのを市の方では行っており、その成果報告は教育振興部だけではなくて、各部署が持っている事業についても行いますので、それをもって評価、検証という形で進めて行きたいと考えております。</p>
議長	<p>議題(1)と重なりますので、そこで時間を取りたいと思います。</p> <p>(4)その他 でなにかございませんか。それでは、4の議題に入ります。「平成26年度社会教育委員の会討議報告」という事で、今、事務局から話がありました様に、これにつきまして「第2次川西市生涯学習計画の素案」という事で、4回にわたり、1年間論議をした所です。その中で文言の訂正、市民に分かる様に内容の細かな説明を入れるなど相当取り入れて頂き、今日の時点になっています。それで、今、報告のあった「川西市生涯学習推進の方向」という事で、計画という形ではなくて、推進の方向ということですので、当初はパブリックコメントをして、市全体の計画としての位置付けにして行きたいということとで論議をして来た訳ですが、市長も含めた経営会議の所で、推進の方向という事で教育委員会の方で当面進めて行くという方向に変わったということですので、まず質問、意見等ございませんか。1月の教育委員さんとの意見交換会の前に1時間程、内部討議をやったところですが、ここを出して頂いた方がありがたいと思います。それでは一点質問したいと思います。平成15年度4月に第1次生涯学習計画を策定されて10年が経ち、1年、間をおき新たに10年間の計画を立てようという事で1年間論議して来た訳ですが、結局推進</p>

審 議 経 過

NO. 3

事務局	<p>の方向という形で、市全体の位置付けではなく、教育委員会でまずはやりなさいという事なのですか。確認です。</p> <p>そのとおりで、生涯学習は非常に多岐にわたっており、また市長部局に移行している部分も沢山あり、その一つ一つが非常に重たい課題である。基本的にはその計画については第5次総合計画の中にしっかり含まれているということで、その中で生涯学習というものについてこれから進む方向を教育委員会として、先ず明確にしながら進めていくべきではないかということです。</p>
C委員	<p>それでは、今後、社会教育委員の会の所管部署はどこになるのですか。</p>
事務局	<p>社会教育委員の会につきましては、まなび支援室の中の社会教育・文化財課が所管になります。</p>
E委員	<p>先ほどの説明の中で、教育委員会としてまず進めて欲しいと言われ、音頭を取るのには教育委員会という事はよく分りましたが、生涯学習というものは市の行政が非常に絡んで来る部分があるのですから、行政のトップの方も推進に関わって頂く様に連携を取って頂きたいというのが要望としてあります。というのは、この4月からは市長が教育委員会を束ねるという形になるということですが、行政のトップも教育の中に入り、指示をされるという事になると思いますので、ぜひ連携して頂いて実りのある方向をお願いしたい。</p>
議長	<p>この計画については今まで5回にわたり論議したことをまとめて頂き、表題が変わり、「生涯学習推進の方向」ということで教育委員会がすすめる計画としてご理解を願うという形で終わらせて頂きたいと思います。</p> <p>最後に社会教育委員は、独任制ですので、それぞれの委員さんから本年度の終わりにあたって用意していただいたレジュメを元に意見や提言を報告して頂けたらと思います。私は第1次生涯学習計画の時にはまだ現場の方におり、市民アンケートを取ったりする時に違った立場で関わらせて頂きました。それらを踏まえてこの10年間、地道な形ですが施策としてやっていらっしゃるなという思いで改めて見させて頂いた。先ほどE委員が言われた様に、今後10年に渡る生涯学習計画の施策という位置付けをはっきりして頂き、独自性も出しながら市長部局との連携、共通認識を更に進めていただかなければならないという思いがあります。また、社会教育の部門が組織として市民から見た時には全く分らなくなってしまう。行政における社会教育の組織としての位置づけをしっかりとやってもらわないと、毎年こんなに変わっているとやはりそこを危惧します。個人的に思うのは社会教育施設のことで、公民館についても、指定管理者制という話が出て来る心配が、組織的に見た時に危惧してしまう。そういう意味で社会教育という行政組織をはっきりと川西市として教育委員会としてしっかり立てて欲しいなということを思います。生涯学習の位置付けというのは教育基本法が改正されてから謳われているが、現場では、運用の部分でまだ混乱している部分があるのではないかという感じを持っています。最後に今後については、公民館活動等を含めての社会教育施設等における生涯学習の重要性というものを論議していきたいと思います。</p>

審 議 経 過

NO. 4

B委員	<p>私も公民館活動の重要性を感じており、引き続き、公民館の運営委員の設立を望みますという事で書かせていただきました。先日の泉先生の講演の中に地域の中心となる公民館の「公」を「光」に変えた光民館という話があり、それが印象に残り使わせて頂いた。去年の12月にミュージカルの「川西の金太郎」の2作目を上演し、そこでは市内の各公民館で活躍されている「源流創作舞踊」、緑台公民館登録グループ「フローラ・アンサンブル」、大和の自治会の登録グループ「マンマミーア」の皆さんに協力頂き、公演は成功する事ができました。その皆さんですが、殆んどの方が高齢者ですが、この公演活動を通して、地域の中に居場所を見つけ、生涯教育に積極的に励んでおられ、公民館における講座などでの活動の必要性を感じました。そこでの講師と仲間との出会いから、色々な活動に繋がって来ていますので、魅力ある公民館講座を作る運営委員を各公民館に作り、さらに地域のニーズに合った講座を考案して行きたいと思えます。</p>
C委員	<p>私は出席できなかったが「兵庫県社会教育委員協議会総会・研修会」の資料を頂き、その中の文部科学省生涯教育政策局社会教育課長の書かれた社会教育や社会教育委員の事がよくまとめてあり、非常に参考になった。社会教育の基本的な方向性や国の政策の動向、学校・家庭・地域の連携協力の推進や、土曜日の教育活動の推進、公民館等の振興とそして最後に社会教育委員の皆様を期待する事という事で川西市役所の皆さんに勉強して頂きたいと思うのと、来年度の資料を見ると社会教育がなくなったような感じがするので、その辺のところを斟酌して頂いてぜひよろしくお願い致します。</p>
E委員	<p>生涯学習という学習体系システム作りに関わらせて頂き、私たちが言ったことが反映されて最終的に冊子になり、大変嬉しい。できる限りやってみるという行政の方の姿勢には感謝申し上げたい。ふるさつを見つめて地域社会をネットワークで繋ぎ、それが国全体の今日的な課題の解消に繋がるだろうという将来の見通しからこの生涯学習の推進の方向が立てられているなというふうに思っております。まず足元の川西らしさというものを創造して頂きたいという事があります。実はその新しくできた『生涯学習推進の方向』というのは、教育に関わる課題やその解消方法に至るまで幅広く書かれていると思っています。家庭教育から学校教育、そしてその後の社会教育に至るそういう全領域を細かな所まで網羅されているものと思っています。そういう事から、書かせて頂いたのは、昨年度の全国社会教育委員会長の「社会教育は学校教育の母体であり、高齢化社会の切り札である」という言葉が大変印象に残りました。社会教育が安定し、活性化すれば学校教育が安定する。それから先日の泉校長の講演の中でも「子どもが育つ土壌を耕す」、即ち子どもを点ではなく面で支える地域づくりということ。木津川先生の講演の中でも、文明が前進するほど忙しくなり時間的なゆとりがなくなっていく。この三人の共通点を捉えて、この社会教育委員の会の年間研究テーマ「地域、学校、家庭をつなぐ社会教育のあり方」のつなぐという事が今日的な課題を捉えるキーワードだと思っています。そのつながりを困難にしている、その一つの表れが、自治会の加入率で川西市内は60%だそうです。地域のまとまりが薄く、会合に出るのは同じ方ばかり。孤立している高齢者が増加しているのに、民生委員に欠員が増加し、いわゆる共助のネットワークのほころびが出ている。市役所の元職員さんが民生委員に一人も就いておられないのは不思議な事だと思っています。また、学校の事に関しては、保護者、地域の支援者に必要な情報が不足しているのではないかという気がします。日頃からの関係が薄いほど学校に苦情だけを言う。そんな地域との関わり</p>

になってしまう。学校によって違うとは思いますが、学校との関わりに消極的になり、虐待、ネグレクト、精神的疾患、DV、というのが増えていると思います。それから、青少年の自己肯定感が低く、その人の価値というものを認められない疎外感、孤独感、そういうものが反社会的行動につながるのではないかと思います。今、連日の様に川崎市の中学生在が殺された事件を報道されていますが、あれだけSOSを発信して、周りの者も暴行されている状況を知っていて、それでも救えない。今の社会を象徴している様に思います。すぐには解決にならないと思いますが、提言として、学校が意図的な教育的カリキュラムを組んでする機関であるからこそ、その中で地域との関わりを積極的に持ち、地域の実態に応じた学校であって欲しいという願いです。教育基本法が7年前に改正され、その中にも繰り返し地域の実態に応じた教育ということが書かれている。この理念がなかなか現場に浸透していないのではないかと。行政の方は第1番目に学校支援の事を書かれており、地域に根ざした教育を推進すると第1項に掲げられています。実践にあたっては、学校支援地域本部が学校に関わって支援をして行く。それには、学校がニーズを出して行かないと支援されないのではないかと。学校の経営方針の中に地域との連携や地域あつての学校作りとか、地域は人材の宝庫ですので、地域の人に支援してもらいますとかその辺を入れて計画立てて欲しいと思います。郷土愛というのは、地域の人とのふれ合いの中で、ふるさとを愛する気持ちを育み、将来、またふるさとで頑張ろうという気持ちになる事だということです。それから、4番目として、子どもを「面」で支える地域環境は「点」で支える環境づくりの延長上にあり、これは先日の泉校長の講演の中でも、子どもを点でなく面で支える地域づくりとあり、まず第一歩は点でつながっているという事で、その点は子どもと家族や親戚につながるのだらうと思います。そういう温もりの中で育てることで、それが一生につながる信頼関係、大人への信頼、そして地域への信頼となると考えています。それから学校が地域支援を必要とするということをもまず発信し、職員が皆理解をし、協力して地域の人達を温かく迎えるという、つまり地域の大人とコミュニケーションできる場を増やしていく。それには教員免許あるなしに関わらず、学生とか保護者の中で学校に関わりたいという人がおられると思うので「きんたくん学びの道場」は学校教育課の方でされていると思うのですが、これは地域支援の方でされる方が良いのではないかと思います。つまり、学校で地域ボランティアが児童生徒を指導する場が設定されて、年齢差を越えたふれ合いと学び合いがあつて、その後、やっつけて良かったという実感を持ち、そしてまた自分も将来、地域の人達と働きたいというふうになる。そう思った学生等が学校に勤めて、地域ぐるみの教育実践をして行くというそういうサイクル作りをしてはどうかと思います。最後は、生涯学習というのは生まれてから死ぬまでですから、段階に応じた人達が勉強する拠点作りをして欲しいという事で締めくらせて頂きました。

G委員

今回、「第2次生涯学習計画の策定」という事で私が一番に思ったのは、一番伝えたい、意識を高めたいのは一般の市民、そこに伝わる様に作っていくべきだということで色々な意見が出てきた。それが一番伝えたい方には伝わらず、推進の方向という事になったのは、とても残念だったと思います。私自身は人権教育担当をさせて頂いているが、先日研究大会があり、多田東地区の発表で、人権というのはテーマが幅広いので、とくに子どもに絞られていた。子どもと直に話し合いをされて、そこだけで終わったのかと思うと子どもの後ろには必ず保護者がついて来る。子どもが興味を持つ様な内容にし、子どもをパイプ役にして大人を巻き込んで行くというやり方で進められていた。これは自分の地域でも

	<p>一度試してみたいとすごく感じました。自治会長をさせて頂いているが、主婦目線という事で今年度は自治会をさせて頂いた。その中で「ごみダイエット」とか「ながらパトロール」とか書いていますが、私もそうですが親の介護や、我が子を置いてのパトロールというのはなかなか難しいので、その中での抑止力という形でとにかく皆さんに関心を持って頂く。そこの部分の意識を高めて行くというのを中心にさせて頂いた。地域の方は地域分権がスタートしますので、地域の連携から生涯学習という事を考える立場で私はこちらに出席をさせて頂いているというふうには思っていたのですが、教育委員会の方で推進の方向を検討となると、私はちょっとこの場には場違いなのかなというふうには今は感じています。</p>
<p>I 委員</p>	<p>学校教育に携わっている者として書かせて頂きました。先日、県の教科の集まりがあり、淡路島の校長先生と話をしたのですが、淡路島は、今、少子高齢化で子ども達が非常に少なくなっているという事で、その中で印象に残ったのが、昔、淡路の港町が荒れていた時代があり、学校の授業も出ないというとにかく大変な時代があった。ところが、当時そういった大変な事をしてきた子ども達が今、淡路で仕事を継いで親や祖父母を扶養しているが、当時、勉強をして淡路から出て、大学へ行った子ども達は、淡路には帰って来ないということでした。社会教育・生涯学習と学校教育が目指しているものが逆になっている。子ども達は自分のために利益を得るために学んでいき、自分だけという事で、人と人とのつながりをどんどん切って行く部分がある。淡路島には豊かな自然があり、ふるさとというすごい資源があるわけですが、そこには子ども達が帰って来ない。豊かな生活を得るために地方を捨てて出て行く。文科省からよくグローバルという言葉が出てきます。グローバル人材の育成。グローバル人材というのは要するに国を出て活躍する人材。国を出ると言う事は言い替えば地域を出ると言う事で、つまり目指しているものは地方から外へ出て行く人材を作っていくということです。学校教育で目指すものは地域とのつながりというのがありますが、学習指導要領で教える内容が決まっているため、難しい部分もあります。しかし、自分のためというよりも、個々のつながりを学校の中でつけていかなないと、子ども達は地域に帰って来ない。今、自治会の加入率が低いとか地域の教育力が低いと言われていますが、その親達がそういう教育を受けてきた結果だと思えます。しかし、今やっているものも結局昔とあまり変わらない様に感じます。先日の木津川先生の講演で聞いた「パパラギ」をすぐに読んでみたのですが、そこにはお金、物、時間、仕事にがんじがらめにされている「パパラギ：白人」の話が抽象的に書いてあった。南の島の人達の生活のように地域で皆を支え合って行くというのが社会教育の目指す部分ではないか、今の学校教育とは全く違う人の育て方が必要かなと、そういう感想を持ちました。</p>
<p>H 委員</p>	<p>学校現場にいますので、学校を起点にして考え、少しでも学校が地域をつなぐ場になればという事で書かせて頂いた。特に小学校は地域の行事が多く、子どもが参加すると子どもを介して地域の方も集まって来る事が多いので、交流の場として学校を利用して頂くという事は進めて行きたいと思っています。もうひとつ、本校では道徳の時間を大切にしようという事で子どもの意見をしっかりと引き出し、子どもと向き合って道徳的な心情、価値判断、実践意欲、そういうものを育てて行こうという事で進めていますが、学校の中でだけではなく、地域の中にも広げる事ができないかと考えています。学校評議委員会というのがあり、そこでは子育てを終えられた方が、学校についての意見や子どもの様子など</p>

	<p>で交流をしているのですが、学校は時間に追われたり、結果責任を求められたりするのですが、そういう子育てを離れている方と話をするとそういう物を横に置いてゆっくりと話し合えますので、そういう場が作れないかと思っています。地域でも来年度から3世代交流という事で、学校を利用して放課後、子ども達と地域の方が交流できる場を計画しようとされています。今年度からは、本校でも認知症の学習会を開いていますが、地域包括センターの方が計画されてコミュニティの福祉部会の方に入って頂き3年生の先生に頼みやりました。子ども達は3年生だったのですが、お年寄りが認知症になったら同じ事を聞いたり、怒りっぽくなったりするのでゆっくり話を聞いてあげるとか、同じ事でも何回も聞いたり、ゆっくり話し合う時間を作っていきたいというふうな事を話してもらって、それを聞いていた地域の方もすごく良かったと感動されていた。そういう場面で、地域の方とふれ合える場ができるのではないかと思います。学校安全協力委員の制度が発足した当時、明峰小学校の教頭で勤務していたのですが、発足時には多くの方が応募されていたのですが、最近では学校安全協力委員の方の数も減り、逆に募集しなくては行けないという事があります。明峰小学校に出張に行く途中で当時の方が、もう90になられると思うのですが、子どもの下校の見守りをなさっているのを見かけたが、そこまでやられるのは、生甲斐をそこで感じておられるからではないのかというふうに思うのです。本校でも募集してもなかなか集まらなかったが、去年、一人の参加があり、「子どもさんを見て元気を頂いています。」と、ありがたいと思いました。学校の中で子どもの安全や心の教育、道徳的な心を育てるとかそういうことをゆったりと話し合える場を持てる時間を設定し、どんな学習活動でも遠慮せずお願いして行く事も必要ではないかと思っています。</p>
<p>F委員</p>	<p>今回、第2次生涯学習計画案について意見を述べさせて頂いたことで生涯学習について学ぶ事ができ、社会教育のあり方についても改めて考える事ができました。生涯学習は生涯にわたって全ての学習に関わるものであり、人が生涯にわたって学び続けて成長し続ける事ができ、学んだ成果を適切に活かす事ができる社会、それが生涯学習社会ではないかと思っています。今、地縁的なつながりも減少し、近所付き合いも希薄になり、地域のコミュニティ機能が低下している事で、子育て中のお母さんの孤立が多くなって来ている。家庭でのしつけができていない子どもが多いというのをコミュニティの事で地域で活動している場面や、保育所に勤めている時も家庭教育力が大変低下しているという事を感じました。子どもの健全な育成には成長する子どもを見守り、関わる大人の役割があり、大人はそれを認識して行動しないと行けないのですが、その大人が育っていないというのが現状です。家庭、学校、地域の連携を向上させていくには、協力し合える様に活動内容の情報を発信し、情報を共有する。コーディネーターなどのつなぐ役割をするのが公民館であり、地域であるので、その組織をきちりしていかななくては行けない。やはり人材の育成も大事ではないかと思っています。地域は人材の宝庫で、地域や学校に活かしてもらえる様に、そういう人材情報を収集しながら、地域の中からもっと促して行きたいなというのを今考えています。生涯をかけて人のためになる事を学んでいくというのも生涯学習ではないかなと思います。</p>
<p>D委員</p>	<p>26年度の社会教育委員の会を振り返り、先日2月16日の阪神北地区社会教育委員協議会の合同研修会で木津川先生や泉先生の話聞き、社会教育委員としての立場や役割等を改めて考えさせられました。独任制の社会教育委員だからこそ自分が関わっている、携</p>

	<p>わっている所の代表としてもっと意見を行政に発信して行く事が大事なのだと改めて思いました。私が今携わっている学校支援地域本部の事業や図書ボランティア、学校司書そして子育て支援の立場で現場の生の声をもっと発信していきたいと思っています。先日の研修の中でも地域がやせ細って行くとそのツケは高齢者や子どもなど弱い所に集まるとあり、そういうことがないようにきちりとして頂きたいと思います。学校支援地域本部の会議でも、話し合いがあり、E委員も言っておられましたが、学校支援地域本部という事業が根付いて来ない。例を挙げますと、その先生が他の学校に移動されると、すごくよかったと喜んでいただいていたのに、その年はその学校から依頼はなく、移動された学校でまた支援の依頼がある。なぜ良かったのにその学校で続かないのか、すごく残念で、そういう学校の体制も考えて頂けたらと思います。2つ目に子ども達を育てる住み良い川西にしてもらいたいという思いがあります。この夏から子育て支援の立場で関わらせて頂いているが、他市から引っ越して来られた方が、川西市はプレイルームや児童センターが少ないとよく言われる。中心部の川西能勢口周辺には総合センターやアステのプレイルーム、パレットなどがあるが、それ以外の場所に少ない。それとこの前も言いましたが、キセラで子育てのプレイルームを作って頂けるのであれば、もっと現場の声を取り入れて頂きたい。最後に以前から毎年社会教育委員の方が提言されている事ですが、情報の発信の仕方に改良や工夫が必要だと思えます。アステ市民プラザの存在を未だに知らない方もたくさんおられ、アステを利用されている方でベビーカーを押している方にこの6階にプレイルームがあるのご存知ですかと聞いたら、知りませんと言われる方が沢山おられる。せっかくいい所ができて利用して頂けなければ残念なので、規制があるのかも知れませんが、アステのエレベーターの中にポスターを貼ったり、掲示板を増やすなりしていただきたい。学校支援の会の中でも学校支援地域本部は図書に特化して進んできているので、図書関係に関しては学校支援にお願いできるが、ボランティアの質を考えたらなかなか学校支援にお願いできない所があるとされた校長先生がおられました。確かにコーディネーターの方もボランティアの方がどういう事をされているのか、どういう方をコーディネートして良いのかということまではできていないので、もっと改良すべきだと思いました。また市の情報を普段公民館とかを利用されない人も色々な店や場所で目にしたら、イベントや情報をもっと知る事ができるし、何かそういう情報の発信方法を考えるべきではないかと思う。広報に協力していただける所を一覧にして、どちらもよかったという形で広がっていけば良いのではないかと思いました。最後に、ずっと言ってきましたが、私は聴き方を勉強しているのですが、子育ての場面などで聴くという事は大切で、相手の主張を先ず一旦受け止めるという事はすごく大事ですので、これからも教育の場でさらに広まって欲しいと思いました。</p>
E委員	<p>人と人をつなぐコーディネーターの役割は、学校支援地域本部が中心になる筈なのですが、最初に頂いた川西市の施政方針にはどこを見ても学校支援地域本部の言葉がない。放課後こども教室は書いてあるのですが、川西市こども・子育て計画案を見ても学校支援地域本部の言葉が載っていない。川西の教育の方針はさすがに第1番目の所に学校支援地域本部事業の推進と謳われていますが、川西の教育に関わる部分の所で載っていたり載っていなかったりするというのは非常に軽く見られているのではないかという懸念をします。</p>
事務局	<p>施政方針は、市の全体の予算に関わりますので、載せる部分が絞られています。</p>

審 議 経 過

NO.9

議長	<p>それでは、議題1の所の討議報告については終わらせて頂きます。なお、教育委員会への報告書の提出については、文言の修正なども含めて正副議長の方にお任せ頂きたいと思っております。それでは、5その他に入らせて頂きます。先ず事務局の方でよろしく願います。</p>
事務局	<p>それでは、次年度の社会教育団体に対する補助金について、ご説明します。予算案については、現在開会中の市議会において審議されておりますが、PTA連合会などの4団体への補助金につきまして、個々の補助金の額を申し上げますと、先ず、川西市PTA連合会に28万3千円、川西市立幼稚園PTA連絡協議会に4万5千円、川西ユネスコ協会に9万円、川西市婦人会に9万円であります。また、学校支援地域本部事業補助金については、78万円であり、このうち、市からの補助金は26万円で、国・県からの補助金が52万円であります。</p>
議長	<p>補助金関係の部分については、この会を通して報告しないとイケませんので、以上の報告で、承認させて頂いてよろしいですか。</p> <p style="text-align: center;">-----「はい」と承認の声あり-----</p>
議長	<p>私の方から、27年度につきましては、引き継いで年6回という設定で会の予算を取ってあると聞いています。これは論議して頂いたらいいのですが、我々委員の会は任期があと1年残っています。開催方法につきまして、今、試案の形ですが、全体会と分科会にしたらどうかと考えています。6回の内3回を全員が集まっての会に、それと、分科会、小委員会という形で2つ位に分かれて集中的に、社会施設や学校教育、家庭教育等々について論議をして、全体会の3回部分でまとめて行くという形にできたらという1つの案でございます。今までのやり方でも構わないという部分もあろうかと思いますが、小委員会を3回やり、全体会では3回という様なかたちで4月当初事務局の方から提案させて頂けたらという。事務局ではなくて、我々の方で決めておいたら4月から次年度残り1年任期をしっかりとやっていけるのではないかと考えています。続いて事務局願います。</p>
事務局	<p>(レフネック入学案内の説明)</p>
議長	<p>以上を持ちまして今日の議事は全て終了しました。次回につきまして事務局の願います。</p>
事務局	<p>次回の平成27年度第1回社会教育委員の会の開催について平成27年4月22日、午前10時からの開催を予定しております。会議場所につきましては、202会議室を予定しています。</p>
議長	<p>これをもちまして26年度第6回社会教育委員の会を閉会とします。</p>